



「おみやげも貰えて満足!」
(名古屋市立東港中学校)

近畿・東海地区の平成十
三年度JR連合体輸送の申
込が間もなく締め切られる。
ここ三年間の動向をみると、
関東地区の変化は少な
いが、東海・近畿両地区的
関係者の努力によって連合
体輸送は成立した。それ
ぞれの地区の公立小、
専用列車の運航にも影響が
ある。しかし、今や連合
体輸送は、学校団体の団体
として、各学校にとつ
ても修学旅行実施の根幹な
ことを認識すべきであろう。
として特別な存在となつて
なつたのである。

近畿・東海地区の平成十
三年度JR連合体輸送の申
込が間もなく締め切られる。
ここ三年間の動向をみると、
関東地区の変化は少な
いが、東海・近畿両地区的
関係者の努力によって連合
体輸送は成立した。それ
ぞれの地区の公立小、
専用列車の運航にも影響が
ある。しかし、今や連合
体輸送は、学校団体の団体
として、各学校にとつ
ても修学旅行実施の根幹な
ことを認識すべきであろう。
として特別な存在となつて
なつたのである。

連合体輸送の 継続発展に向けて

主張

10年後(2009年)の修学旅行人口は 今年度(1999年)より76万人 減少の見込み

—修学旅行に見る少子化傾向—

総務省統計局の統計によると、我が国の総人口は約一二六百万人(一九九八、現在)となっており、少子化傾向としては、少子化と高齢化傾向が進んでいるとのことである。

少子化傾向を出生数で見てみると、ピーク時の一九七五年(昭和50年)には二百万を超えたが、平成元年(一九八九年)からは

百二十万人前後と安定しており、少子化傾向は歟止め

が掛かったと思われる。

しかし、修学旅行人口は依然として少子化傾向が進

んでいる状況である。

【修学旅行人口とは】

修学旅行の実施学年は、

一般的に小学校は6学年、

中学校は3学年、高校は2学年である。

修学旅行人口とは、これら修学旅行を実施する各学

校種の対象学生徒数を言

う。

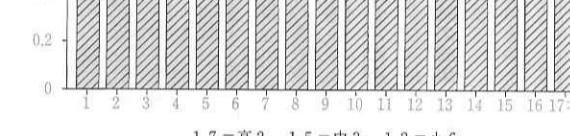
【本年度の年齢別人口】

下図は、一九九九年十月

一日(推定)の年齢別人口

グラフである。

十七歳(高校一年生)人



17 = 高2、15 = 中3、12 = 小6

【修学旅行人口の推移】

本年度の修学旅行人口の

合計は四三二九千人となっ

ており、少子化傾向により

修学旅行人口は年々減少傾

向を辿る。

六年後の二〇〇五年には、

三七〇一千人(本年度より

六二八千人、指數で八

五五、十一年後の二〇一

〇年には、三五四千人(本

年度より▲七八七千人、指

数八一・八)と見込まれる。

21世紀の修学旅行は、時

代の変化・教育の改革だけ

でなく、少子化への対応に

より、ますます大きく変化

するものと思われる。

修学旅行新聞

発行所 財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人 鴻田好通
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
1-17-1 N K第1ビル
☎ 03(5259)0631

財団法人全国修学旅行研究協会(全修協)
は、日本の教育の振興に寄与することを目的
とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求す
人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を
目指して、全国的規模で活動する文部省許可
の教育研究財団である。

口は一五〇三千人、十五歳
(中学三年生)人口は一四
八三千人、十二歳(小学六
年生)人口は一三四三千人
となつており、今しばらく
就学児童数は減少傾向を辿
る。

【修学旅行人口の推移】

本年度の修学旅行人口の

合計は四三二九千人となっ

ており、少子化傾向により

修学旅行人口は年々減少傾

向を辿る。

六年後の二〇〇五年には、

三七〇一千人(本年度より

六二八千人、指數で八

五五、十一年後の二〇一

〇年には、三五四千人(本

年度より▲七八七千人、指

数八一・八)と見込まれる。

21世紀の修学旅行は、時

代の変化・教育の改革だけ

でなく、少子化への対応に

より、ますます大きく変化

するものと思われる。

修学旅行人口の推移(予測)

(単位:千人、%)

西暦	合計		
	小学校 6年前年比	中学校 3年前年比	高等学校 2年前年比
1999	1,343	—	1,503
2000	1,304	97.1	1,500
2001	1,261	96.7	1,483
2002	1,223	97.0	1,431
2003	1,201	98.2	1,304
2004	1,199	99.8	1,261
2005	1,174	97.9	1,223
2006	1,188	101.2	1,201
2007	1,173	98.7	1,199
2008	1,175	100.2	1,174
2009	1,182	100.6	1,188
2010	1,195	101.1	1,173

※平成10年10月1日現在の日本人人口統計より予測

※高校進学率100%として推計

風紋

立秋が過ぎ
もない一月余り

続いた残暑

が去り、一転し

て秋氣を感じる

爽涼の朝

梧桐の大葉を散

策して

梧桐の葉を散

ら手招きして

いるのに

手招きして

梧桐一葉落ち

が止まり、「梧桐一葉落ち

天下の秋を知る」という

句があふと思いつ

い浮かんだ

この句は、前一世紀末の中

國・漢の時代に編纂された

淮南子という書物の中の一

文が原典である。中国では

古くから他の木々に先がけ

て散り初める桐の葉のさわ

さわと散る音に秋の到来を

感じ取る趣があった▼我が

國でも、「桐の葉も踏み分け

がたりなりにけりかなならず

人を持つとはなくに・新古

今集秋之歌・式子内親王

桐の葉のうれ吹く風の夕

まぐれぞぞや身にしむ秋は

來にけり・藤原定家

など

に見られるよう、鎌倉初

期の頃から梧桐の広葉の散

り敷くさまに秋の音に秋

を探り出す風雅が伝えられ

ていた▼また、室町時代に

感ぜられた梧桐の葉が散る

音が古くから傳わる

文化が原典である。中国では

古くから他の木々に先がけ

て散り初める桐の葉のさわ

さわと散る音に秋の到来を

感じ取る趣があつた▼我が

國でも、「桐の葉も踏み分け

がたりなりにけりかなならず

人を持つとはなくに・新古

今集秋之歌・式子内親王

桐の葉のうれ吹く風の夕

まぐれぞぞや身にしむ秋は

來にけり・藤原定家

など

に見られるよう、鎌倉初

期の頃から梧桐の広葉の散

り敷くさまに秋の音に秋

を探り出す風雅が伝えられ</p

教育の窓

一 ボランティア活動の登場

今次学習指導要領の改訂においては、前回本欄で取り上げた「ガイドンスの機能の充実」と並んで、「ボランティア活動」が新たに登場する。この重要な意義を、ボランティア活動としてのボランティア活動などを示している。

「道徳」では、道徳の時間の取扱いの学習の配慮事項に「自然体験やボランティア活動など、体験活動としてのボランティア活動がいかに大きな意義を有している。

このことは、単なる頭の周知のように、ボランティア活動とは個人の自由意思に基づき、その技能や活動や自然体験活動などの活動内容を生かすこと。

意工夫ある指導を行うことを、「特別活動」では、「学級会活動」で、活動内容の例として「ボランティア活動」を、「学校行事」の「勤労生・奉仕的活動」で、「ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験」を行うことを示している。

以上のように、今次の学習指導要領の改訂では、豊かな人間性を育む「心の教育」を推進する上で、「ボランティア活動など社会奉仕の精神を養う体験」を行うことを示している。

このようにボランティア活動を学校の教育指導に組み込むことによって、主体的態度を身につけ、創造的に取り組む能力を育む意義。

④社会福祉、自然環境保護、国際協力、地域の発展など多様な活動内容に参加することで、社会の一員としての問題意識を養い、あわせて真の国際人へと発展させる意義をあげている。

これらは、「生きる力」の育成に大きくかかわる内容（人間としての生き方）を育むための活動が、生徒の自分さがしの旅を助け、主体性を育むとともに、豊かな人間性を育むよう、その性格をどう生かすかを考えおく必要がある。

その際、生徒の自発性に任せる活動ではなく、ボランティア活動を通して、社会生活性を十分に活用する上での規範やルールを実際に体験し、社会の一員としての自覚を持つた。

その際、生徒の自発性に任せる活動ではなく、ボランティア活動を通して、社会生活性を十分に活用する上での規範やルールを実際に体験し、社会の一員としての自覚を持つた。

このようなボランティア活動は、個人の自由意思によること、無償性は反対給付を求めないこと、社会一般に還元されること、

社会的一般としての存在の意味を自らの手で見いだす

と、公共性は活動の成果が社会に還元されること、

社会的一般としての存在の意味を自らの手で見いだす